

2021年度同志社大学大学院司法研究科

前期日程入学試験問題解説

小論文

問（１）（配点：２５点）

本問は、課題文を通じて、文章の読解能力と読み取った内容を要約して表現する能力を試している。

採点に際しては、以下の点を中心に評価した。

- ・ 情報公開制度と民主主義との関係を正確に理解しているか
- ・ 公文書管理が情報公開制度にとって不可欠であることを理解しているか
- ・ 文章表現能力

（解答例）

民主主義の下では、主権者たる国民や市民が政治参加において的確に判断を行うために、知識や情報をきちんと入手し、分析できる仕組みである情報公開制度が不可欠である。この制度において特に可視化される必要があるのは政策決定のプロセスであり、行政機関の判断の結果のみでなく、そのプロセスを記した文書の作成、管理、保存がなされてはじめて情報公開制度が機能する。したがって、公文書管理を制度化することは、行政の適正化かつ効率化に資するとともに、行政の現在および将来の国民への説明責任を果たすことにもつながる。（246文字）

問（２）（配点：３５点）

本問は、課題文を通じて、読み取った内容をうまく整理し、問題（原因の軽重）の軽重に配慮しながら要約して表現する能力を試している。なお、知識自体を評価することはしていない。

採点に際しては、以下の点を中心に評価した。

- ・ 戦前戦後を通じた官僚制度のもとでの官僚の文書に対する意識や文書管理の状況を理解しているか
- ・ 文書印刷の技術的な発展と文書量の増加と事務能率との関係を理解しているか
- ・ 情報公開を取り巻く政治的状況を理解しているか
- ・ 文章表現能力

（解答例）

まず、日本の戦前から続く官僚制をあげることができる。戦前・戦後を通じて、官僚には政策決定過程の検証のためにその記録文書を残すという意識がそもそも貧困であった。また、戦前の官僚は、国民に対しての説明責任をもっていなかった。官僚には文書が自分のも

のであるという意識が強く、勝手に捨てたり残したりできるという考え方があった。

また、官僚制度のもとで文書量が増大していくなかでも、官吏の現用価値によって文書の保存期間の判断基準が決められたり、決裁文書等の重要文書のみを残すという発想が醸成されたりしてきた。このことは戦後のコピー機等の発展により膨大な行政文書が溢れるという状況下において、さらに拍車をかけたといえる。

さらに、情報公開という考え方も、ひいては情報公開法の制定という動きも、長期政権が続いたことにより、情報公開の前提にある公文書の管理等の必要性といった意識につながらなかった。(389文字)

問(3)(配点:40点)

本問は、課題文を通じて、文章の読解能力、叙述の論理的展開力、文章表現能力を試している。なお、自分の意見を述べるにあたっては公文書管理にあたっての一般的・抽象的な意見ではなく、文書管理の問題点を踏まえたうえでの意見であることが必要である。

採点に際しては、以下の点を中心に評価した。

- ・行政文書(公文書)の定義と公文書の不存在との関係を理解しているか
- ・公文書の範囲と行政文書の判断方法との関係を理解しているか
- ・文書管理の問題点を踏まえた具体的な改善策の提示があるか
- ・文章表現能力

(解答例)

現政権下においては、公文書管理法の運用規則の改正により、公文書の作成に関して、行政管理者たる課長以上の者が認めたものでなければ行政文書ではないという運用を行って、公文書の範囲を実際には縮小している。また、外部との交渉記録については、相手方に確認をしなければならないとする煩雑な手続きを課することによって、そもそもそのような文書は記録に残さないというインセンティブを働かせる恐れが生じている。また、行政文書管理に対する政府方針についても、行政文書の管理状況の監視強化などの強化はあるものの、なお公文書を作らなければ安全であるという傾向は続く恐れがある。

今後は、「公文書の不存在」が生じないように情報公開法や公文書管理法の改正が不可欠であるが、特に「組織的に用いる」といった行政文書の定義を「職務上作成した文書はすべて行政文書とする」など、行政文書か否かの線引きが行政や政権によって動かされないようにすべきである。(405文字)

(以上)